

千葉市感染症発生動向調査情報

2020年 第45週 (11/2-11/8) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	45週	44週	43週	42週
小児科	18	18	18	18
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	28	28	28	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	11/2-11/8	10/26-11/1	10/19-10/25	10/12-10/18	10/26-11/1
			45週	44週	43週	42週	44週
小児科	RSウイルス感染症		0	0	0	0	0
	咽頭結膜熱		0	0	0	0	16
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1	2	6	3	91
	感染性胃腸炎		11	22	28	27	156
	水痘		3	2	2	5	26
	手足口病		0	0	1	0	3
	伝染性紅斑		0	1	1	0	2
	突発性発しん		10	14	10	13	65
	ヘルパンギーナ		2	6	6	3	10
	流行性耳下腺炎		1	2	1	0	6
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		1	1	0	0	1
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		0	1	2	2	9
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	1	0	0
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	0
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(26件)

※新型コロナウイルス感染症21件は数のみ

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	60歳代	IGRA検査	後天性免疫不全症候群	男性	40歳代	血清抗体の検出
レジオネラ症	男性	80歳代	病原体抗原の検出	梅毒	男性	30歳代	血清抗体の検出
劇症型溶血性 レンサ球菌感染症	女性	70歳代	病原体の分離・同定	新型コロナウイルス感染症	男女	20歳代~80歳代	病原体遺伝子の検出等
				-	-	-	-

・第45週は、結核1件(135)、レジオネラ症1件(13)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1件(5)、後天性免疫不全症候群1件(2)、梅毒1件(16)、新型コロナウイルス感染症21件(854)の発生届があった。

※ ()内は2020年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第45週のコメント

過去10年の同時期と比べると、全て平均未満だった。

■ トピック ■

＜劇症型溶血性レンサ球菌感染症＞

第45週に1件の届出があり、2020年の累積届出数は5件となりました。過去10年の同時期と比べると多めとなっています。第44週の全国の累積届出数は645件で、過去10年の同時期としては最も多かった昨年に次いで2番目に多くなっています。都道府県別では、東京都(84件)、愛知県(44件)、神奈川県(42件)の順で多く報告されています。千葉県は31件で全国第6位となっています。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、β溶血(完全溶血)を示すレンサ球菌を原因とし、突発的に発症して急激に進行する敗血症性ショック病態です。原因となるβ溶血性レンサ球菌は主にA群レンサ球菌で、他にB群G群などがあります。

日常よく見られる、溶血性レンサ球菌感染症は、上気道炎や創傷部位の感染にとどまりますが、稀に皮膚や粘膜から無菌部位の筋肉、脂肪組織や血液に侵入し、軟部組織の壊死を伴う急激な敗血症性ショックを起こします。

初発症状は咽頭痛、発熱、消化管症状(食欲不振、吐き気、嘔吐、下痢)、全身倦怠感、低血圧などの敗血症症状、筋痛などですが、明らかな前駆症状がない場合もあります。後発症状としては軟部組織病変、循環不全、呼吸不全、血液凝固異常(DIC)、肝腎症状など多臓器不全を来し、日常生活を営む状態から24時間以内に多臓器不全が完結する程度の進行を示します。A群レンサ球菌等による軟部組織炎、壊死性筋膜炎、上気道炎・肺炎、産褥熱は現在でも致命的となりうる疾患です。

千葉市では、2010年から2020年第45週までに48件の届出があり、増加傾向となっています。男女別では、男性62.5%(30件)、女性37.5%(18件)です。(図1)。届け出は、年間を通して見られますが、1月から4月にかけて比較的多く見られます(図2)。年齢階級別では、0歳代から90歳代まで幅広く感染していますが、特に60歳代(22.9%:11件)、70歳代(20.8%:10件)で多くみられます。死亡の届出は、40歳代以上で見られました(図3)。症状(重複あり)としてはショック症状の他、播種性血管内凝固症候群(DIC)及び腎不全(共に60.4%:29件)、軟部組織炎(54.2%:26件)の順に多くなっています(図4)。

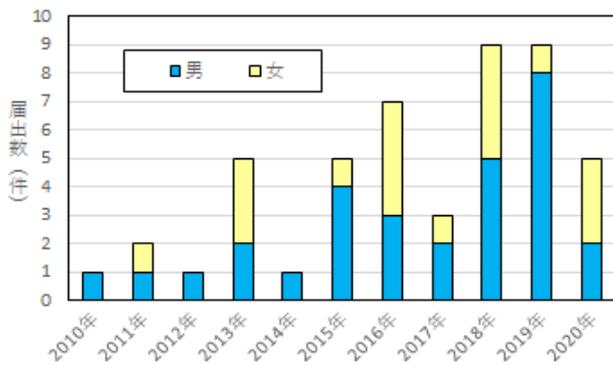


図1 届出数の推移 (2010年-2020年第45週) n=48

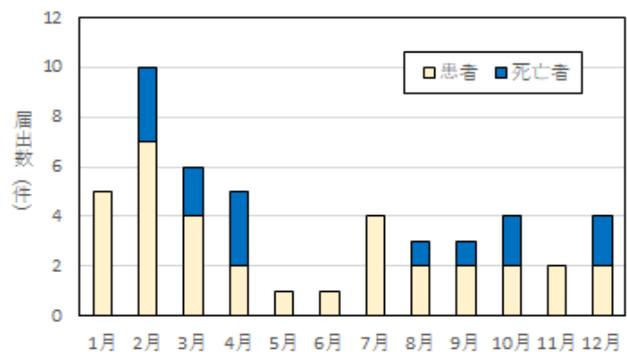


図2 月別の届出数 (2010年-2020年第45週) n=48

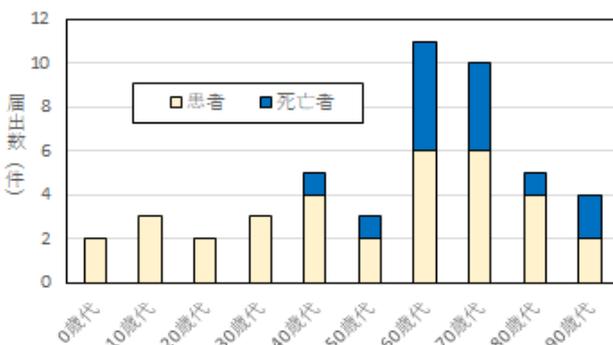


図3 年齢階級別 (2010年-2020年第45週) n=48

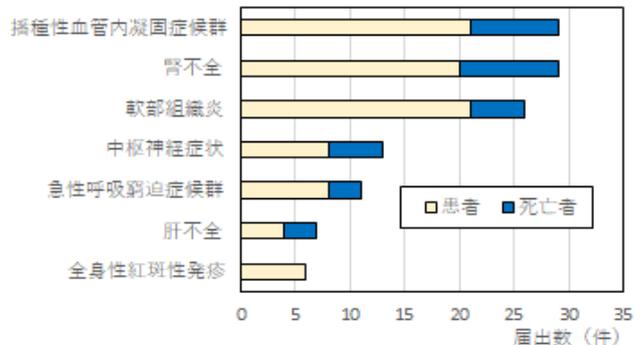


図4 症状別 (ショック症状以外:重複) 2010年-2020年第45週